

常任委員会報告

総務企画常任委員会

総合開発整備（井関地区）事業や、防災無線システム（デジタル式）整備事業をどうしたら実現できるかという視点で先進事例の視察を行った。

1、鳥取県大山町

町営温泉付き分譲宅地「ナスバルタウン」の開発、分譲の取り組みと経過

町をさらに活気のあるものとするため、若い人の定住促進と人口の増加対策で企画されていた。文教や福祉施設に隣接



大山町視察

し交通の利便性も良く、特に地熱水開発事業によりアルカリ性単純温泉水（三百八十トン／日、温度四十℃）が湧出し、町の活性化の基軸として一番要望のあった（なかやま温泉百トン／日使用）を開館し、隣接地の山林を購入、造成し温泉水の有効利用で分譲住宅に配管、切盛土を考慮した場所であった。

百十区画（八万五千二百㎡）の計画で、一区画面積は三百八十㎡、五百六十二㎡で販売価格四百三十万円、七百六十万円の平均坪四万六千円であった。

負担金は温泉五十万円で上水道三万円、下水道三十万円であった。開発販売は町独自で五年間で五十二件である。

2、鳥取県湯梨浜町

防災行政無線設置整備事業

平成十六年十月一日に東郷湖周辺に位置する羽合町・泊村・東郷町が合併した新しい町です。合併前の状況は

- ・羽合町は昭和五十八年整備（アナログ方式）各集落の屋外拡声機まで無線、屋外拡声機から各家庭までは有線施設が古く近年は更新ができなかった。

泊村は平成二年整備で、東郷町は昭和六十年整備と同じ（アナログ方式）で屋外拡声機、戸別受信機ともに無線にて配信。合併時に三千九百万円の整備。火災や災害等の緊急時に情報の一元化を図るため、本庁舎にフルデジタル方式の親局設備、操作卓・無線機を整備。各庁舎に拡声子局を新設し、既設操作卓と接続起動させアナログ波送信。

最終年度に五億二千八

百万円で湯梨浜町全域をデジタル方式に更新。

- ・固定系親局を耐震構造のアロハホールに設置。
- ・屋外拡声機を四カ所新設、孤立の集落に通話遠隔装置二カ所設置。
- ・戸別受信機を五千五百七十三台、聴覚障害者に文字表示装置付きを設置。
- ・中継局を二カ所設置。
- ・再送信子局を二カ所設置。

3、鳥取県伯耆町

別荘地内での定住型森林住宅地の整備

大山のリゾート地に総合開発面積百一万亩で、大和ハウス工業（株）が管理している。高級リゾートで規模が大きく、販売価格も全体に高く設定してあった。

建べい率などの緩和を活かして、緑を大切に残す条件での森林住宅地であった。

